

## 令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	非流暢な発話パターンに関する学際的・実証的研究
研究代表者	定延 利之 (京都大学・大学院文学研究科・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p><b>【課題の概要】</b></p> <p>本研究は、容認されやすい日本語母語話者の非流暢性と、容認されにくい日本語学習者や言語障害者の非流暢性とを対照することにより、言語学、会話分析、第二言語教育、医学の専門家が学際的かつ実証的に非流暢性の本質を解明しようとするもので、極めて独創的かつ創造的な研究である。</p> <hr/> <p><b>【学術的意義、期待される研究成果等】</b></p> <p>現実の母語話者の発話がしばしば非流暢になり、それがコミュニケーションの中で容認されるという事実に着目し、従来の言語学では逸脱とみなされてきた非流暢性の本質に迫る研究であり、音声言語とは何かを根本的に問い直すことにつながる学術的意義を有するだけでなく、言語教育や音声合成技術におけるイノベーションを起こす可能性も秘めている。</p>